

平成 28 年度を迎えて

国大化学会会長 平井太一郎（昭和 41 年 2 部応化卒）

横浜応化会、横浜電化材化会、横国化学会が統一して国大化学会として発足、第10回目の総会を開催いたしました。この10年国大化学会を取り巻く環境も変化が来しております。

- 工学部が理工学部へ改組（平成 23 年）
- 工学部 2 部の廃止（平成 19 年度募集停止）
- 校友会発足（平成 26 年）
- 名教自然会発足（平成 27 年）

これらは国大化学会にも少なからず影響があるものと考えます。この10年、国大化学会は“教育研究支援と会員相互の交流”を2本柱として活動してきました。これからは大学の発展に寄与する意識も必要となります。この点については後に書きました学長の講話にも同窓会・校友会への期待があらわされています。

“教育研究支援”は十分な活動となってきています。“会員相互の交流”について会員情報システム完成をみました。今後はこのシステムの利用に加えてより多くの会員が参加できる会員相互の交流を考える必要があると思います。

後ほど触れますが会費徴収、同窓委員についても今年の課題として検討いたします。

第 10 回国大化学会総会

総会は定刻（13時）に始まり、27年度決算、27年度活動報告、28年度予算、28年度活動計画、各委員会の報告をいたしました。

今年度の特別決議事項として“国大化学会ニュース 2016（28年 5 月発行）”でお知らせした会則の一部変更（下記）を発議して皆様の賛同を得ました。

会則 細則 3、

同窓会の事業（1）企画、会費納入促進、会誌、会員情報（新設）、総会、庶務会計、教育研究支援基金運用（今までも活動していましたが今回の変更に合わせて条文に追加しました。）の 8 事業グループを設ける。



今までの“会誌・名簿 G”を“会誌”、“会員情報”に分け情報管理に対応できるようにいたしました。したがって会員情報は今までの会員情報システムに関することに加えて、当会の情報管理も担当することになりました。

長谷部学長講話

総会終了後、長谷部学長の講話をいただきました。

- 現在日本の大学の大学ランキングの評価は下落の方向にあり、横浜国大も同様に評価が下がっています。

そのような状況の中で、文部科学省は国立大学の改善を促進させ、競争力の強化を要求してきています。

横浜国大としては、地域に根差してグローバル新時代に対応する人材育成を、横浜国大の強みである文理融合を研究・教育に活かして、国際性豊かな YNU キャンパスで実践するようにしていきます。

- これを実現するためには大学だけでなく、同窓会・校友会の協力が必要です。その一つとして「卒業生・基金室」の設置をしました（28年 4 月）。大学運営に必要な財源基盤の強化に加えて、大学だけではなしえないことについて助言・援助（国際的なつながり、同窓会の縦広がり）を得ながら、横浜国大の発展を支える組織として設立しました。具体的な活動は今後発表いたしますのでご協力を

お願いいたします。

• 竹井准子（たかこ）記念奨学金のお話

竹井さんは昭和55年応用化学科（大塚研究室）を卒業、埼玉医大に入学し、卒業後順天堂大学形成外科入局、ドイツ留学を経たのち、お姉様（天野さん）と皮膚科医を開業され2014年他界されました。

ご本人の遺志で“貧困のため勉強できなかつたり、大学進学を断念したりする人のために寄付したい。”との話を受けてYNU竹井准子記念奨学金が設立されたとの話がありました。

（YNU竹井准子記念奨学金については、横浜国大ホームページに掲載されています。）

校友会の話

校友会事務局長北澤氏から校友会と同窓会との違いを解説していただきました。同窓会は同窓生の縦のつながり、校友会は学生、教職員、地域の方々を含めての横のつながりで横浜国大をサポートすることが求められているとの説明がありました。

講演会

講演会は例年国大化学会の会員の方をお願いしていましたが、今年は藤森工業株式会社布山英士社長（教育 昭和52年卒）をお願いいたしました。藤森工業株式会社には多くの国大の卒業生が在籍しております。創業100年、売り上げ1000億円に届く、ライフサイエンス事業（各種包装材料）、情報電子事業、建築資材事業、特にフィルム、シートを専業としています。

“Next100へ新たなる挑戦”と題して話をいただきました。学生にも、企業人にも大切な多くの話をなされ、その中から感銘を受けた点を報告いたします。

- 出来ない理由（言い訳）の発信をやめてこうすれば上手くできるかを発信させる。
- “新しい何か”に取り組むことが人材育成の場を作ることになる。
- 失敗する“権利”、失敗を糧に成長する“義務”

ポスターセッション

場所を化学棟1Fに移し、研究紹介のポスターセッションを開催いたしました。学生から研究の説明を受けるとともに、会員は学生と多くの質疑応答

をしていました。

学生にとって良い経験になったことと思います。

懇親会

懇親会は第2食堂で横浜工業会井上会長、名教就美会永井会長のご挨拶をいただきました。井上会長には名教自然会（理工学部連会の同窓会）についての話をしていただきました。

恒例になりました樋口初代会長の紙芝居、乾杯の発声で懇親会はスタートしました。かぎられた時間でしたが会員同士や会員と学生の有意義な情報交換がなされた様子でした。

昨年と同様に三工会から上ノ山会長以下18名（懇親会14名）が参加されました。

会の活動の柱は教育支援と会員相互の交流です。

教育支援

- ドクターコーススタートアップ支援は今年1人（30万円支給）（去年は4人）
- 学会参加費の補助（45名）
- 化学コース配属懇親会（学部2年生）
- 成績優秀者表彰（5,000円図書券）（14名）
- 社会・企業の勉強の補助
 - * 先輩の企業を訪問する時の交通費（就職とは関係なく、会社の勉強）（2回）
 - * O B ・ O G と語る会
- ChemDraw のソフトライセンス使用料の補助

会員相互の交流

“会員情報システム”の完成、冊子の名簿の発行は終了いたしました。

今後はこの会員情報システムを皆様が利用して、会員相互の情報交換や会員間の交流に利用することをお願いいたします。

国大化学会の今後の問題

• 会費の徴収

27年の入学の学生から同窓会費として30,000円徴収するようになっていきます。（実際の納入者は50%以下）28年度も同様に徴収していますが、来年2年時に配属が決まった時に納入者が判明します。現在の会費（年額卒業生2,000円、学生1,000円）との関係をどのようにするのかを決める必要が出

てきます。

- 同窓委員会

昨年までは総会の前に同窓委員会を開いていましたが参加者が減少してきています。

同窓委員会は国大化学会の活動の中核になる組織です。この同窓委員会をどのようにするかが今年の課題です。

- 会員相互の交流の促進

会員情報システムありきでなく、交流の場の企画等が必要になってきています。

特に会員としての意識の高めるために、同窓会に関心の低い平成の会員の交流に必要なものはなにかを考える必要を感じます。

第11回ホームカミングデー

10月29日に秋の大学祭“常盤祭”と同時に開催いたします。

主な内容

- ジョイントコンサート：12:00～13:15

教育文化ホール

正統派トップテノール オペラ歌手笛田博
昭氏と本学グリークラブ学生とOBのオペラとカンツオーネ

- 講演会：先端科学高等研究院

全体の紹介

三宅淳巳 副委員長

日本の安全な インフラのために

藤野陽三 特別上席教授

未来を招く再生可能エネルギーベース

光島重徳 教授

モノのインターネットのサイバーセキュリティ

吉岡克成 准教授

- 交流会（有料）

* 詳細は第11回横浜国立大学ホームカミングデーのホームページをご覧ください。

国大化学会10年で思うこと

国大化学会副会長 鈴木恵一朗（昭45年 電化卒）

国大化学会が発足して、早10年目となりました。

この間に、国大化学会、大学の状況、大学を取り巻く環境も大きく変わってきています。

国大化学会は、3会の合同以来、学生支援に舵を切り、これを軌道に乗せました。会員である教員の方々の意見を聞き、議論を重ね、ドクタースタートアップ支援などの思い切った支援を進め、充実を図ってきました。

また、国大化学会では発足以来、学生にも役員をお願いしてきました。最近では、毎年4年生、4～6人が学生役員を引き受けてくれ、企画、会誌、総会・懇親会などの各グループの担当となり、行事等の運営に協力し、他の学生に行事等への参加呼びかけを行い、大活躍をしています。そして学生役員を後の学年と交代した後も、同窓委員などとして国大化学会に連なり、会の活動に関心を持ってきています。その総数は今年度までに37人となります。

こうして学生支援と学生役員の活動が両輪となり、学生の国大化学会への認知度が上がり、活動の意義を実感する学生、若い卒業生が増えてきているように思います。総会への来賓の方々からも、国大化学会の総会行事には学生の顔が見え、喜ばしいとのコメントいただいています。少しずつではありますが、長い目で見て好循環が生まれ始めている気がします。

また、今回10周年の総会を迎えるにあたり、何とかして参加者を増やしたい、そのためにはどのような総会・講演会・懇親会にしたらよいかについて、平井会長の要請により、総会Gの平野リーダー、企画Gの小野塚リーダーと私で検討を進めました。この検討チームでは、色々と新しく意欲的なアイデアが出され、これが、リーダー会議、役員会で議論され、今年の総会行事は今までとは少し違う考え・方法で行われました。皆様、いかがでしたでしょうか。是非、感想、ご意見等を伺いたと思います。

一方、最近の傾向として気になるのは、合同以前より同窓会を支えてきた方々の総会への参加が減っ



てきている点です。これは会費の納入が減ってきていることにも表れています。3会が別に総会を行ってきたときに比べ、参加人数が減ってきているのです。これは皆さん、年齢が上がってきますので、高齢の方々の参加が次第に減っていくことは仕方がないことと思います。しかし、会が大きくなったために、顔を知っている参加者の数が減り、会への帰属意識が薄れてきていることも影響していることと思います。同期のクラス会等で国大化学会のことを話しても、未だに、国大化学会とは何なの？という人が少なからずいます。また、最近、同窓会関係の組織、情報がより複雑、多層化してきていることも関係しているのではないかと思います。考えてみると、ホームカミングデー、名教自然会、国大化学会、各クラス会、研究室の集まりなど、関係するものが色々あります。このような状況の中で、国大化学会についてどのように説明し、参加を呼び掛けていくかも今後の課題と思います。

さて、私自身が国大化学会でこの10年間にやってきたことを少し振り返りたいと思います。最初の4年間は会誌・名簿グループの担当・リーダーとして、後の6年間は副会長として、また平成24年からは名簿ワーキンググループのリーダーとして会員情報システムの立ち上げに携わってきました。この会員情報システムの立ち上げには予想以上に苦勞し、最も時間を使い注力することとなりました。以下に、名簿、会員情報システムについて、その経緯を含めて

少し触れたいと思います。

国大化学会では、会員名簿を発足の年の平成19年5月、次号を平成23年2月に発行しました。平成23年発行に際しては、個人情報保護法の関係等から、どのような名簿とするかが議論され、平成22年の総会ではアンケートが行われ、時間をかけて検討の結果、その前の名簿とほぼ同じものを発行するに至りました。そしてその後、国大化学会では3年毎に名簿を発行することとしているため、次の平成25年度の名簿をどうするかについての議論が始まりました。平成24年度には名簿ワーキンググループが発足し、まず国大内の同窓会の名簿の状況を調べました。どの同窓会も、個人情報保護の問題、費用の問題など、同様の問題を抱えていましたが、新しい方式として注目されたのが、その時点で横浜電子情報工業会、富丘会がそれぞれ別に使用を始めていたウェブ版名簿でした。また同窓会の中には、横浜名教就美会（旧生産工学科同窓会）のようにその後、名簿の発行自体をやめてしまったところもありました。

名簿ワーキンググループでは今後の可能性がありそうなウェブ版名簿について、上記両会の採用したシステムを調べ、運営会社を訪問し、ヒアリングを行い、また両会の採用に至る検討経過資料をもらう等の調査を重ね、従来の紙媒体の名簿との比較検討等を行いました。その結果、平成25年度に、横浜電子情報工学会と同じアルムネットを採用することを役員会に提案し、承認を受けました（その後、同システムが国大校友会にも採用されています）。これが平成26年度に導入が進められ、平成27年度より利用開始されたYokochem Network（国大化学会の会員情報システム）です。

Yokochem Networkにより、会員各自がいつでも自分の情報、公開範囲を更新・設定でき、様々な検索方法を用いて、常に最新の会員情報を知ることができるようになりました。冊子名簿に比べ、個人情報保護がより良くでき、また年当たりの費用も大幅に下がりました。また、本システムにより他の会員へのメール発信、クラスなどのグループの作成ができ、会から会員への連絡も容易にできるなど、単なる名簿ではできない色々な機能を持つため、今後の利用拡大が期待されます。なお会員情報システム導入時に希望がありました冊子名簿についても導入時の特別措置として本年、制作し、有償配付しましたが、購入者は17人とどまりました。上記の状況の変化を踏まえ、会則の名簿に関する条項については、来年の総会で改定提案することを役員会で検討しています。

Yokochem Networkについては、本会誌にも記事がありますので、まだよく知らない方は、是非ご覧になり、まずはYokochem Networkについての認識を新たにしていただければと思います。国大化学会の今後の発展のキーとなるシステムと思いますので、ご自身の情報を更新するだけでなく、他の会員を色々な切り口で検索するなど、使ってみていただければと思います。なお、名簿ワーキンググループは課題の検討、実施を終わりましたので、発展的に解消し、本年度よりYokochem Networkの本格的な運営、利用拡大を目指し、会員情報グループがスタートしています。どうぞよろしくお願ひ致します。

以上、国大化学会の現状、今後について、いくつか感じることを記させていただきました。わずかでも皆様の参考になれば幸いです。